

当せん者エピソード

宝くじ こぼれ話

**「強運ですねえ、宝くじを買ったら」
といわれて買ったら100万円に当せん**

鹿児島県の主婦E子さん（40）は、年の瀬に近所のスポーツ店でおしゃれなブーツを見つけて購入した。その際、店の売り出しキャンペーンでスクラッチカードを1枚もらい削ったところ、1等に当せん。これには、E子さんより、店員の方がびっくり。そして「強運ですねえ、このまま宝くじを買った方がいいですよ」と、なにやら熱心にいわれてしまった。ここまでいわれて、その気になったE子さ

んは店を出て、おりしも発売中の年末ジャンボ宝くじ（第633回全国自治宝くじ）を天文館チャンスセンターで20枚購入した。E子さんにとって、これが人生2度目の宝くじ購入で、最初の購入は独身だった20歳の時で、ちょうど20年前だったそう。

「強運だ」と人にいわれて購入した今回の宝くじ。帰宅後は大事にタンスに保管。そして、抽せん日の翌日に当せん番号調べをしたところ、やっぱり、強運のE子さん。なんと3等の100万円に当せんしていたのだ。換金の窓口で「すごくうれしいけれど、なんだか、まだ夢の中にいるみたいです」と語るE子さんだった。



当せん者エピソード

宝くじ こぼれ話

**テレビのコマーシャルのおかげで
高額当せんしたラッキーさん2人**

ジャンボ宝くじの発売を宣伝するテレビのコマーシャルを見て「買うぞ！と決心して宝くじを買った人」と、コマーシャルを見て「宝くじの番号調べを思い立った人」がそれぞれ高額当せんした。ともにテレビのコマーシャルのおかげで幸運をつかんだといえそうだ。

宝くじを「初めて」買うのではないが、めったに買わない神奈川県の実主婦A子さん（46）。なのに、年の瀬にテレビで宣伝する年末ジャンボ宝くじのコマーシャルを見て「買ってみようかな」と思い立ったそう。それで、買い物に

出かけたさい、駅前のスーパー脇の売り場で年末ジャンボミニ（第670回全国自治宝くじ）を20枚購入。お正月に番号調べをしてみたら、うれしや1等7,000万円に当たっていたのである。

もう1人は滋賀県の会社員Sさん（37）だ。5年来のジャンボ宝くじのファンだが、暮れにテレビで年末ジャンボ宝くじ発売のコマーシャルをたまたま見て「買おう」と決心。それと同時に「夏に買った宝くじはどうしたかな。調べなきゃあ」と思い立ったそう。

そこで、本棚の上にとずっと置きっぱなしにしていたサマージャンボミニ（第664回全国自治宝くじ）30枚を取り出して、インターネットで番号調べ。その結果は、なんと1枚が1等6,000万円に当たっていたのである。

